



は左岸を乗り越えて進む。この先にも2基の朽ち果てた玉石のダムがあるが、こ

れは簡単に乗り越えることができた。

しばらくして8mの滝。ハングで落ちており、直登は不可能。左岸を捲く。

遡行を開始して2時間。行程の半分くらい来た所で、まわりが急に明るくなると、前方に突然の滝。高さは不明。見える範囲では軽く50m以上、同じ傾斜で稜線まで続いている。周辺は雪崩の影響か、立木は全くない草付。滝を強引に直登すれば登れそうであるが、下降の支点となる立木はなく、思案の

あげく遡行終了として、今きたところを戻ることとする。 (記・

[タイム] 林道(7:15)→遡行終了(9:20)

蒲生川支流下苧巻沢 (仮称) 1995年7月30日

L

林道を走っていると、どの沢も水流が細い。水田に水を引くための用水路の元をたどると沢があり、これを苧巻沢と思い込んでしまった。結果的には苧巻沢の1本下流の沢であった。

すぐさま治山ダム。これを乗り越えて進むと、今度はゴーロ帯。これを過ぎるとスラブ帯である。地図で確認すると、苧巻沢の1本下流の沢だとわかったが、もう後の祭である。結局稜線めざして進むことにする。

上部はスラブで、どうにも手のつけようがない。やむなく尾根に逃げて稜線に立つ。稜線でしばらく休み、ザイルを使って八木沢への下降に移る。

(記・

[タイム] 林道(7:20)→稜線(9:00)